

～ 大雪と冬至 ～ 冬の到来

12月の二十四節気は、上旬の大雪（たいせつ）と、下旬の冬至（とうじ）です。
本格的な冬の到来となります。

日本での特徴的な冬の気圧配置は、西高東低です。
読んで字のごとく、日本の西側に高気圧、東側に低気圧がある気圧配置のことで、日本海側では雨や雪なのに対し、太平洋側では晴れになります。

これを天気図で見ると、縦に等圧線の間隔が狭くなっています。
間隔が狭くなるほど、等圧線に沿って吹く北寄りの風が強いことを示します。

また気象衛星画像で見ると、日本海にいくつもの筋状の雲が現れることがあります。
これを日本海寒帯気団収束帯（JPCZ）と言い、発生位置が大陸に近いほど寒波が強く、日本海側の地域に大雪を降らせる可能性が高くなります。

これは大陸からの風が冷たいほど、日本海海面水温との差が大きくなり、雲が発生しやすくなるため
で、雷の発生も多くなり、急な大雪のため走行中の車が動けなくなってしまうこともあるほどです。

時々、天気図や気象衛星画像など、異なる視点から冬の天気概況を確認してみたいかがでしょうか。
(次回は小寒と大寒)

